

**製品名: RBL2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81384**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	128.4kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RBL2
別名	Rb2; P130
遺伝子 ID	5934.0
SwissProt ID	Q08999
免疫原	大腸菌で発現したヒト RBL2 (AA: 939-1139) の精製された組み換え断片。

**背景**

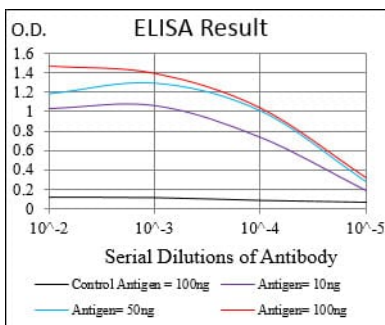
RBL2 は細胞分裂開始の重要な制御因子です。ヒストンメチル化を安定化させることで、クロマチン全体の構造、特に恒常的ヘテロクロマチンの構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与します。ヒストンメチルトランスフェラーゼ SUV420H1 お

よび SUV420H2 をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こします。ヒストン H4 の Lys-20 トリメチル化を制御します。プロモーターにクロマチン修飾酵素をリクルートすることで、転写抑制因子として機能すると考えられます。E2F を介したトランス活性化の強力な阻害剤であり、E2F5 と優先的に会合します。サイクリン A および E に結合します。アデノウイルス E1A タンパク質に結合し、その形質転換能に関与している可能性があります。腫瘍抑制因子として機能する可能性があります。

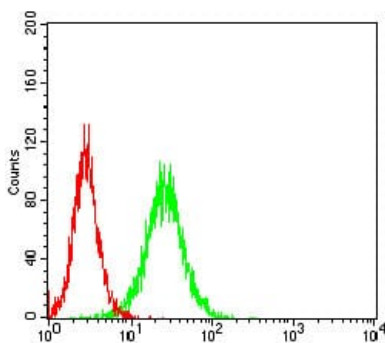
## 研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路

## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



RBL2 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。